

基本情報

- 人口: 97,734人
(令和7年6月末時点)
- 市長: 中西 茂

活動実績

- 現地訪問: 2回 (5/14-15、8/27-29)
- 東京での会議: 1回 (6/4)
- オンライン会議: 6回 (4/21、5/28、6/19、7/16、7/30、8/14)

地方創生支援官

- ① 防衛省 係長級
- ② 総務省 室長級
- ③ 文部科学省 補佐級

市の課題

○人口減少、移住・定住、若者・女性の活躍

・2000年の106,462人をピークに人口減少が続いている。若者・女性も進学・就職を機に市外に転出している。それに伴い出生数も近年では1,000人を割っており、地域における担い手不足などへの影響の深刻化が懸念される。

・進学等で市を離れても、若者とつながり続け、就職などを機に戻ってくることのできる環境整備、また起業家、テレワーカーなど市への移住希望者が確実に移住できる環境整備を行うことで、若者・女性の活躍を後押しすることが急務。

KANOYeah! CITY



支援の流れ

「一次世代交流プログラム「好き」を形に。「サイバー空間」が拓く、かのやの未来。」に向けて ○地元関係者との意見交換・訪問(4月～)

・移住者や女性起業家の方々と意見交換・訪問を行い、鹿屋市ならではの魅力、働き方、行政支援などについて洗い出しを行うとともに、首都圏に移住した若者とも意見交換を行い、その魅力、市の改善すべき点などを整理した。

○テーマの特定(7月～)

・整理した課題の中から、「若者・女性に選ばれるまちへ」という大きなミッションのもと、サイバー空間を活用した、「若者とのつながり、つながり続けること」を念頭に、各種事業、コンテンツ、イベントなど企画立案中。

意見交換を通じて得た課題や主な意見(抜粋)

市在住の移住者・女性起業家と意見交換(5月14日)

- 子育てをするには家の広さや移動時のストレス等から地方がよい。
- 鹿屋の若者に対しても起業という自分のやりたいことを突き止めていくことの大切さを伝えたい。
- 親の介護で鹿屋に戻らざるを得なかつたが、フルリモートできる環境が決断させた。（転職なき移住（フルリモート）が望ましい）



市長と鹿屋市出身の在京女性との意見交換(6月4日)

- 鹿屋の情報が届いていない。鹿屋市の情報発信についてターゲットに応じてツールを使い分ける必要がある。
- ヨシロットン（グラフィックデザイナー）など芸能人以外にも鹿屋にゆかりがある人とコラボレーションしたほうがいい。
- 起業よりも継続が難しいのでそのサポートが欲しい。



かのや女性会議(8月27日)

- 市役所が信頼のおけるオンラインコミュニティを設置して欲しい。
- 面白いこと、チャレンジすることに対して行政からの承認やサポートがあればやりやすい。
- 年代別の「大規模同窓会」や「おかえりなさい会」という企画も面白いと思う。



デジタルプラットフォーム『かのやコネクト』(仮称)の創設

- 鹿屋市出身者/応縁者等とつながるためデジタル住民票の発行(企業はデジタル法人登録)
- デジタル鹿屋市にコミュニティを創設し、リアルとバーチャルで鹿屋市(市民・行政等)とデジタル住民がつながり続ける
- つながり続けている出身者が戻りたい、応縁者が住みたいと感じるまちづくり

出身者・応縁者とつながる

●デジタル住民票の発行

《技術》

- ・かのやID付与

- ・NFTによる特別感や所有欲刺激

《普及》

- ・高校、大学卒業者、ふるさと会会員など出身者

※毎年1,300人が新規会員

- ・企業から鹿屋支店の出向者やふるさと納税者などの応縁者 等

※鹿屋市民についても発行

※ふるさと住民登録制度の活用を視野

●デジタル法人登録

- ・デジタル鹿屋市上で商業活動も可能

つながり続ける

●パーソナライズされた情報発信

- ・ライフステージに応じた情報の発信
(就活、子育て、移住支援 etc.)

●デジタルコミュニティの創設

- ・VR空間を活用したデジタル鹿屋市(行政手続も可)
- ・コミュニティマネージャーを配置

●リアル×バーチャルイベントの実施

- ・コミュニティの活性化、地域魅力の再発見。新たな応縁者の創出
(例)

「メタバース婚活(次頁参照)」、「かのやオンライン部」、「リナかる(サブカルチャイベント)」「ヨシロットン(グラフィックアーティスト)」との連携 等

戻りたいまち住みたいまち

●若者・女性の「夢」の実現

- ・夢の種プロジェクト(市民及びデジタル住民による政策提案・実行)
- ・行政、商工団体、観光協会、NPO、金融機関、フリーランスなどオール鹿屋で夢の実現を後押し

●自然と最先端のテクノロジーが融合したまち

- ・デジタルを最大限活用し地域資源を最大限引き出す「デジタルリノベーション」を促進(夢の種プロジェクトも実現)

(例)

- ・AIを活用したマッチング型就職支援
- ・VRを活用した移住体験 等

出身者や女性のUターン促進/応縁者等の増

(参考) かのやメタバース婚活



かのや
メタバース
婚活

Mitsu-VA

婚活パーティーイベント
7.12 [Sat]

アバーネート
7.19 [Sat]

対象者
20~39歳の独身男女
(結婚後に鹿屋市で暮らす意がある方)

参加費
2,000円(税込)
※パートナーシップ診断付き

募集人数
20人(男女各10人)
(応募多数の場合は抽選)

カップルになられた方へ
デートで使える
カフェ割引券プレゼント

お申し込みはこち
申込期限: 6/26

Point 01 内面重視の
婚活ができる

Point 02 デジタル仲人が
安心サポート

Point 03 ご自宅PCから
参加OK!

※メタバースのご利用にはPC(Windows/Mac)に「バーソルマーケティングシティ」のインストールが必要です。

お問い合わせ

主催: 薬院島県鹿屋市
運営事務局: バーソルイノベーション株式会社

ミツバ事務局
mitsuba-support@persol-innovation.co.jp

概要

- ・7月12日にメタバース上で実施。各人アバターでチャットで話しかける。
- ・男性10人、女性8人参加。（男性は応募多数のため抽選。千葉県からの参加者あり！）
- ・当日8組のカップル成立。リアルデート6組実施！
- ・後日鹿屋市でリアルデートを実施。（市からはカフェクーポンをプレゼント。県外から鹿屋市への移動は移住支援部署と連携し、移住体験制度などをご案内）



参加者の声

<女性>

- ・姿が見えない状態で会えることで安心できた。（地元での婚活は知人に会ったらどうしようと思っている）
- ・対面で反応が分からぬ分、相手の話に集中できた。
- ・メタバース空間では、自身の身だしなみを気にする必要がなく気楽だった。
- ・自治体の移住サポートもありよかったです。

<男性>

- ・対面と違い、内面の良さを見ている感じがした。
- ・新鮮で楽しかった。
- ・現地に足を運ばなくても、遠くの人と簡単に交流できてよかったです。
- ・イベント後も相手との交流にワクワクして過ごせた。年齢差を感じず、リアルで会うのが樂しみ。

長島町(鹿児島県) 「鹿児島県最北端、長島町の挑戦！ ～鯵とじやがいものまちの躍進・離島に架かる橋～」

地域交通×
農林水産業×観光

基本情報

- 人口: 9,427人
(令和6年9月末時点)
- 町長: 川添 健
- 産業: 養殖ブリ生産日本一

活動実績

- 現地訪問: 2回
(5/1-5/3, 8/7-8/10)
- オンライン会議: 18回(基本週1回)
(4/16、4/24、5/7、5/16、5/21、5/23、5/28、5/29、
6/5、6/12、6/20、7/2、7/3、7/11、7/17、7/23、
7/30、8/21) ※8/25現在

地方創生支援官

- ① 会計検査院 補佐級
- ② 法務省 係長級
- ③ 経済産業省 課長級

町の主要課題

○獅子島架橋

有人離島の獅子島について、架橋は20数年来の全町民の悲願である。ポテンシャルを有した一次産業の所得向上や夜間医療体制の確保などが望まれているものの、島内インフラの現状や架橋事業の採算性などが課題となっており、国や県との調整を継続的に実施中。

○観光・産業の活性化について

外資系ホテルの進出(予定)を前提に「サンセットの丘」周辺の観光施設の整備や、「獅子島産業倍増プロジェクト」など農業・漁業の振興を促進するため、具体的な計画や財源確保に取り組んでいるところ。

○若年層の確保について

町内に高校がないため、高校等進学とともに町を離れざるを得ない構造的な現状があり、働き手の確保が課題。慶應大と連携したブリ奨学金プログラムを軸にUターン者を主な対象とした地元の仕事の創出に向けて、地元事業者、教育・金融機関等との更なる連携に取組中。



養殖鯵の水揚げ量日本一！



支援の流れ

○現地訪問・関係者へのヒアリング(4月～)

長島町、鹿児島県庁、東町漁協、地元生産者、獅子島を訪問してヒアリングを実施。現場の生声を収集することで町内の現状に直に触れ、課題を明確化。また、道の駅など特産品を知ることで一次産業の出口を確認。

○課題対応策の提案・検討(5月～)

毎週の会議による伴走支援を通して、各課題への対応策を協働で検討。また、町と霞ヶ関との調整の仲介に入ることで、課題を明瞭にし、再度整理し直すことで検討の効率化につなげてきた。一方、限られた予算の中、民間企業との連携が有効であることから、地域創生、EC市場、食イベント、教育DX、地域交通などの観点から鹿児島県内の大学や事業者との連携を模索中。

○広報活動の促進(8月～)

経営者ネットワークや発信力のある複数の中小企業経営者を現地に招聘し、町や特産品の魅力を紹介し、同町のファンになってもらうことで、SNSや口コミ等のリアル情報による長島町の認知度向上を促進中。

基本情報

- 人口: 5,271人
(令和7年8月時点)
- 町長: 今井 力夫

活動実績

- 現地訪問: 1回
(6/19-21)
- オンライン会議: 7回
(4/16、5/15、5/27、6/9、7/25、8/27)



地方創生支援官

- ① 内閣官房 室長級
- ② 環境省 補佐級
- ③ 文部科学省 補佐級



知名町



町の課題

○人口減少の解消

子育てしやいまちづくりや島の観光と農業を連携しながら島内の経済循環をつくり島にくる人を増やしたい。

○人と環境の調和

環境省の脱炭素先行地域に選定されているが、農作物から廃棄される資源などをリサイクルすることや、EVや自動運転技術の活用について模索している。

○部活動の地域展開

指導者の育成を含めて指導者の確保が困難なため、部活動の存続が難しい上に、部活動の地域展開をどのように進めていくか検討中。

支援の流れ

○伴走支援を行うテーマ等の確認(4月～)

オンライン会議や現地訪問(6月)を行いながら町役場の方や関係者にヒアリングを行い課題となっているテーマや現状を聴取し、伴走支援の内容を明確化。

○課題の整理と今後の解決策についての検討(8月～)

聴取した課題に対して、関係省庁等にも必要に応じて相談しながら、国の支援策や他地域で先行的に進められている事例の紹介や解決策の提案。

○更なる活動の展開(9月～)

現地訪問などを活用して支援官が直接現場で活動を行うなど効果的な発信や取組の具体化を後押し。

国の事業紹介・提案(環境分野)



脱炭素先行地域が目指す沖永良部島のあり方

2030年に民生部門電力のCO₂排出量ゼロ化によるゼロカーボンと持続可能な島づくりの基盤とする

島内で小型電力網による再エネ供給体制を構築し、電力の脱炭素化を目指します。



マイクログリッドの構築
ゼロカーボンアイランド
おきのえらぶ
脱炭素化に向けた
離島モデル
の構築

デボジット
生ごみ資源化
ゴミの資源化
排出される「ごみ」を資源として有効活用し資源循環の環をつくります

EVの推進
EVバイク
電気自動車
再エネの電力を電気自動車や電動バイクに活用することで日常の移動の脱炭素化を実現

島内の公共施設を中心に再エネ・省エネ・蓄電設備を導入し、平時・非常時を問わず再エネ電力を活用します

知名町からの相談事項



国の事業紹介・提案

あなたのまちの「脱炭素」に
プロに伴走してもらえる心強さを

環境省
Ministry of the Environment



三次公募 8/29〆切

脱炭素まちづくり アドバイザー派遣事業

こんなお悩みはありませんか？

- どの脱炭素事業を優先的に取り組むべきか助言がほしい
- 太陽光発電設備の導入にあたり専門家のアドバイスを聞きたい
- 地域で行う普及啓発の企画について相談したい
- 再エネポテンシャルを確認したり、資金調達等の検討を支援してほしい

そのお悩み、アドバイザーがサポートします！

希望に合わせて選べる派遣形式

- スポット型**
《サクッと集中相談》
訪問1回 + オンライン2回程度、始めの一歩と一緒に整理します
- 伴走型**
《じっくり伴走支援》
訪問2回 + オンライン4回程度、検討から実行までをサポートします

脱炭素まちづくり
ミニ相談 随時受付中

知識・経験豊富なアドバイザーが多数！

アドバイザーの専門分野（一例）

- 太陽光 / バイオマス・小水力 / ポテンシャル調査 / 省エネ / ZEB・ZEH / 事業計画 / 地域新電力 / 官民連携 / 普及啓発 / 資金調達など

地方公共団体の皆さんの、課題まちづくりを進める上でちつとした疑問、お困りごと等をお寄せ下さい。事務局にお気軽にお問合せいただければ、脱炭素まちづくりアドバイザーが電話・メール、オンライン打ち合わせ（最大1時間）等でお答えします。※2026年2月末まで。専門外の内容等で対応できかねる場合もございますのことご了承下さい。

地域における若者を中心とした活動



"エラブが好き！"を形にできる団体 「一般社団法人シマスキ」を設立

これまで島の取り組みにはボランティアとして参加していましたが、5年後、10年後、年を重ねても島のために続けていきたいという想いが強くなり、2023年3月に「一般社団法人シマスキ」として法人化しました。『沖永良部島に開わるヒトたちの“シマ”が“スキ”という想いを“カタチ”に』を理念に掲げて、沖永良部島のPR活動や、島の活動に参加しやすい関係づくりに力を入れています。おきのえらぶ島観光協会と協力して島内外のイベントに参加したり、最近では、島内の中学校で講演なども行っています。

また、島で働きたいけどどこで仕事を募集しているか分からないという声もあって、そういった若い子たちの希望と沖永良部島で抱えている課題をマッチングさせていくような取り組みもしていきたいです。今は島外にいる沖永良部島出身の若い子たちが、都会でも不安なくエラブが好きって想いを持って生活してくれることで、都会でも集中できるかもしれないし、島へ帰ってくる人がいるかもしれないし、島を出ても安心できるサポートを今後も続けていきたいです。僕たちが沖永良部島と本土との架け橋になれるように活動していきたいと思っています。



シマスキとの意見交換(6/20)

今帰仁村(沖縄県)ジャングリア沖縄が開業する人口9000人の「ゆがふむら」 “素通り観光”からの脱却・産業振興・子育て世帯定住への道

観光×産業振興
×子育て支援

基本情報

- 人口: 9,286人
(令和5年12月時点)
- 村長: 久田 浩也

地方創生支援官

- ① 文部科学省 係長級
- ② こども家庭庁 課長級
- ③ 公正取引委員会 補佐級

村の課題

○“素通り観光”からの脱却

世界遺産今帰仁城跡をはじめとした観光資源(本年7月には「ジャングリア沖縄」が開業)が豊富にあるものの、観光客が宿泊まで至らず地域経済への波及効果に課題。

○若者の雇用の創出や所得向上

地域に愛着を持つ住民が非常に多いものの就労環境に課題(例: 県内自治体の中で1人当たり所得が最下位)。

○子育て支援の充実

村の自主財源が乏しい中で若い世代・子育て世代のための各種支援を充実させる必要。



支援の流れ

○まずは聞く!「受け」のお悩み対応

村の各行政分野ヒアリングを実施(役場の全課室から課題を聴取)。壁打ち役となりつつ、相談事に対しても調査して回答。各課題の解決に向けて伴走支援。

○そして話す!「攻め」の戦略提言

重ねてきたヒアリング+現地視察+支援官の目線で気がついた観点で調査を進めつつ、課題解決に向けた多角的な戦略提言を作成中。

まずは聞く！「受け」のお悩み対応

○現状把握や課題感の目線合わせを図るため、ハイペースで意見交換等を実施。その中で具体的な課題にも調査して回答。



	開催日時	開催方法	概要
1	4月11日	オンライン	企画財政課
2	4月18日	オンライン	総務課・企画財政課
3	4月25日	オンライン	企画財政課・出納室
4	5月1、2日	訪問	・村長と意見交換　・今帰仁城跡、スイカ選果施設、古宇利島観光拠点、ジャングリア周辺道路等視察
5	5月9日	オンライン	社会教育課・建設課
6	5月23日	オンライン	福祉こども課・学校教育課
7	5月30日	オンライン	議会事務局・住民課
8	6月6日	オンライン	健康づくり推進課
9	6月23-25日	訪問	村長等と意見交換、今井政務官と共にジャングリア等視察
10	7月4日	オンライン	財政企画課(ふるさと納税等)
11	7月31日	オンライン	今帰仁村教育長・学校教育課(村の教育政策等)
12	8月28-30日	訪問	・経済課、商工会、観光協会等からのヒアリング ・農地視察　・副村長と意見交換

- 【お悩み対応例】
- 防犯カメラの更新の相談 ←デジタル活用推進事業債などを紹介。
 - 公民館の指定管理制度利用可否の相談 ←調査し、事例と共に可能である旨を回答。
 - こども家庭センター設立に向けた設備や、統括支援員の登用の相談 ←調査し、要件や運用の工夫等を回答。
 - 職員の待遇改善に向けた論拠強化の相談 ←他自治体との比較データを作成して提供。

そして話す！「攻め」の戦略提言

- 今後は、3つの柱とそれを支える2つの基盤を中心に課題の深掘りや更なる解決策の検討を進める。
- イメージは以下のとおり。

- ✓ 現状の「素通り観光」から、宿泊者増加により地域経済発展の可能性
- ✓ 観光客の時期と時間帯の分散に課題
- ✓ ジャングリアとの相乗効果・滞在価値を高めるため、観光客の時間帯・時期の軸をずらす施策が有効か



例えば..
世界遺産今帰仁城跡の
通年ライトアップなど？

柱1 観光対策
柱2 人口対策

3つの柱

産業振興

柱3

- ✓ 出生数減少が続く中、教育・子育て支援強化や移住推進策が重要
- ✓ 地域を巻き込む魅力的な学校教育活動が展開される中、その発信に課題
- ✓ 「教育と言えば今帰仁」「子育てるなら今帰仁」というイメージを内外に発信など



人員体制の強化

2つの基盤

財源確保

基本情報

- 人口: 1,655人
(令和7年5月末時点)
- 町長: 上地 常夫

活動実績

- 現地訪問: 2回
(5/22-24, 6/1-2)
- オンライン会議: 7回
(4/21, 4/28, 6/3, 12, 26, 27, 7/2)

地方創生支援官

- ① 国土交通省 補佐級
- ② 経済産業省 補佐級
- ③ 内閣官房 課長級

町の課題

○住宅不足・住宅価格の高騰

移住・定住者用の住宅が不足し、家賃相場も高騰していることに加え、資材価格も高騰しており、住宅の新設も困難であることにより、移住希望者の受け入れに課題。

○魅力的な産業の振興

燃料費の高騰等により1次産業の収益性が低下しており、若者にも魅力的な産業の誘致・振興に課題。

○エッセンシャルワーカー等の確保

医療、保育、幼稚園、介護、農業等、あらゆる分野におけるエッセンシャルワーカー等の確保に課題。



支援の流れ

まずは移住者の受け入れに資する住宅問題を中心に対応。
○与那国町住宅WG(5月~)

与那国町役場各課長等が構成員となる住宅WGを5月に立ち上げ、当該WGに現地でオブザーバー参加。今後、同WGを活用しながら、与那国町における住宅状況を整理するとともに、公共事業の発注見通しも整理。

○移住定住促進住宅の移譲

移住者用に活用可能な旧気象台宿舎を与那国町へと移譲する取組につき、沖縄気象台、沖縄総合事務局財務部等、関係者が多岐にわたる中で、必要な課題整理や関係者との調整を行い、取組を加速化させた。

与那国町の魅力と課題

- 日本の最西端に位置する与那国町は、美しい砂浜や、豊かな自然環境に育まれた固有の動植物、与那国織など独自の文化にも恵まれ、ダイビングの聖地としても名高いなど、魅力にあふれた場所。
- 一方、離島固有の住宅不足等の問題により、「移住したくても移住ができない」者が存在し、あらゆる分野におけるエッセンシャルワーカーの確保などにも課題がある。

○西崎(日本最西端)日の入り



○立神岩



○ドクター・コトー診療所口ヶ地



○与那国馬



与那国町の活性化に向けた取組

- まずは移住者の受入れに資する住宅問題への対応として、
 - ・与那国町住宅WGでの議論に参加し、課題整理等の支援を行っているほか、
 - ・旧気象台宿舎を与那国町へと移譲する取組についても伴走支援も実施中。

○農業者向け住宅



○旧気象台宿舎



○公営住宅

